

次 第

- 1、南砺市のまちづくり
- 2、南砺市の課題
人口問題と急激な少子化 長寿化
- 3、財政状況 行財政改革
- 4、公共施設再編 合併による2倍の公共施設がある
- 5、消滅するまち 増田レポートショックから 地方創生
- 6、南砺型地域包括ケアシステム 医師不足から
- 7、小規模多機能自治へ 新たな住民自治のあり方
- 8、エコビレッジ構想から SDGsへ
- 9、南砺幸せ未来基金の設立に向けて
- 10、農村文明創生日本塾の立ち上げ
- 11、その他 空き家 文化政策 アニメ 他

南砺市エコビレッジ構想

小さな循環による地域デザイン



南砺市市民協働部エコビレッジ推進課

【基本理念】 小さな循環による地域デザイン

【基本方針】

1. **再生可能エネルギー**による
地域内エネルギーの自給と技術の育成
2. **農林業の再生と商工観光業**との連携
3. **健康医療・介護福祉**の充実と連携
4. 未来を創る**教育・次世代**の育成
5. **ソーシャルビジネス**や**コミュニティビジネス**による
エコビレッジ事業の推進
6. **森や里山の活用**と懐かしい暮らし方の再評価による
集落の活性化

南砺市エコビレッジ構想とエコビレッジプロジェクトの概要



【基本理念】小さな循環による地域デザイン

自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築

- 【基本方針】 ①再生可能エネルギーの創出 ②農林業の再生 ③健康医療福祉介護の連携
④次世代の人材育成 ⑤ソーシャルビジネスの推進 ⑥新しい暮らし方の提案

エコビレッジ住宅ゾーン

南砺産材による自然共生住宅と南砺の風土にあった住宅ゾーン・新しい暮らし方の提案



薪・ペレットの供給

木質エネルギー利活用

南砺の8割を占める木質資源のエネルギーシステムの構築



エコビレッジ部活動

市内高校生・中学生の活動への支援

- 循環農業
- 共学農園
- 世代交流
- 地域文化



再生可能エネルギーの活用

分散型エネルギーによる災害に強い拠点づくり
太陽光発電（自家消費）
木質ボイラー（温泉加温、給湯、空調）

エコビレッジ桜ヶ池モデル地区

桜ヶ池エコビレッジプロジェクト委員会との連携



エコビレッジ法人
(株)つなぐ南砺の設立



- キッチンカー営業
- 池美化活動・植樹
- エコビレッジPR事業

クリエイタープラザ

アニメ、映像、音楽などのコンテンツ産業の集積



合掌家屋「かず良」再生



合掌造り「かず良」
カフェ、ゲストハウス

350年の歴史を誇る合掌家屋の再生と麻や養蚕などの伝統産業の復活



養蚕・絹織物・麻（麻布）

一般社団法人
リバースプロジェクトとの連携

循環型農業の拠点 「オーガニック街道」事業



木質発酵熱利用や炭素循環農業等の安全安心で美味しい循環型農業の推進

森里川海の人的ネットワークの活用

市内全域への波及
南砺エコビレッジの実現



エコビレッジモデル事業



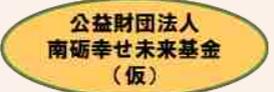
市民提案事業への支援

- ①バーク発酵熱農業
- ②農産物加工販売
- ③古民家再生カフェ
- ④寺子クラブ
- ⑤南砺の山の炭焼き
- ⑥パーマカルチャー
- ⑦堆肥化循環事業



コミュニティファンドの活用

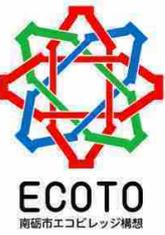
地域の思いを地域の知恵と資金で自ら実現する仕組みづくり



確かな未来は懐かしい過去にある

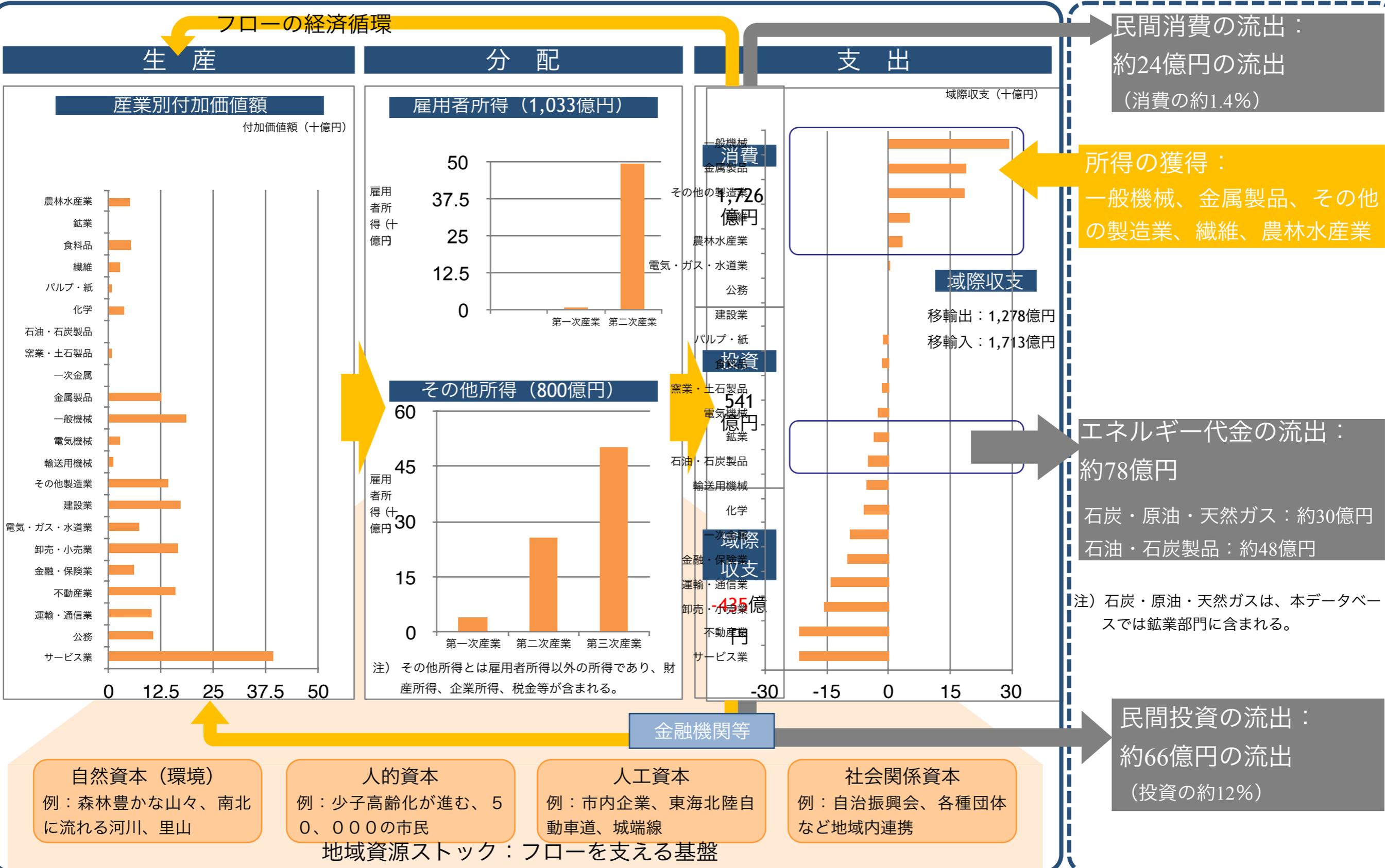
南砺エコビレッジの新しい暮らし方の提案による次世代につなぐ持続可能な循環型社会を目指します
南砺の354自治会が地域資源を活用し自立できる地域づくりを進めます

地域の所得循環構造（南砺市）



南砺市総生産（/総所得/総支出） 1,832億円【2010年】

地域外



注) 消費＝民間消費＋一般政府消費、投資＝総固定資本形成（民間）＋総固定資本形成（公的）＋在庫移純増

南砺市森林利活用事業の概要

森林をめぐる状況

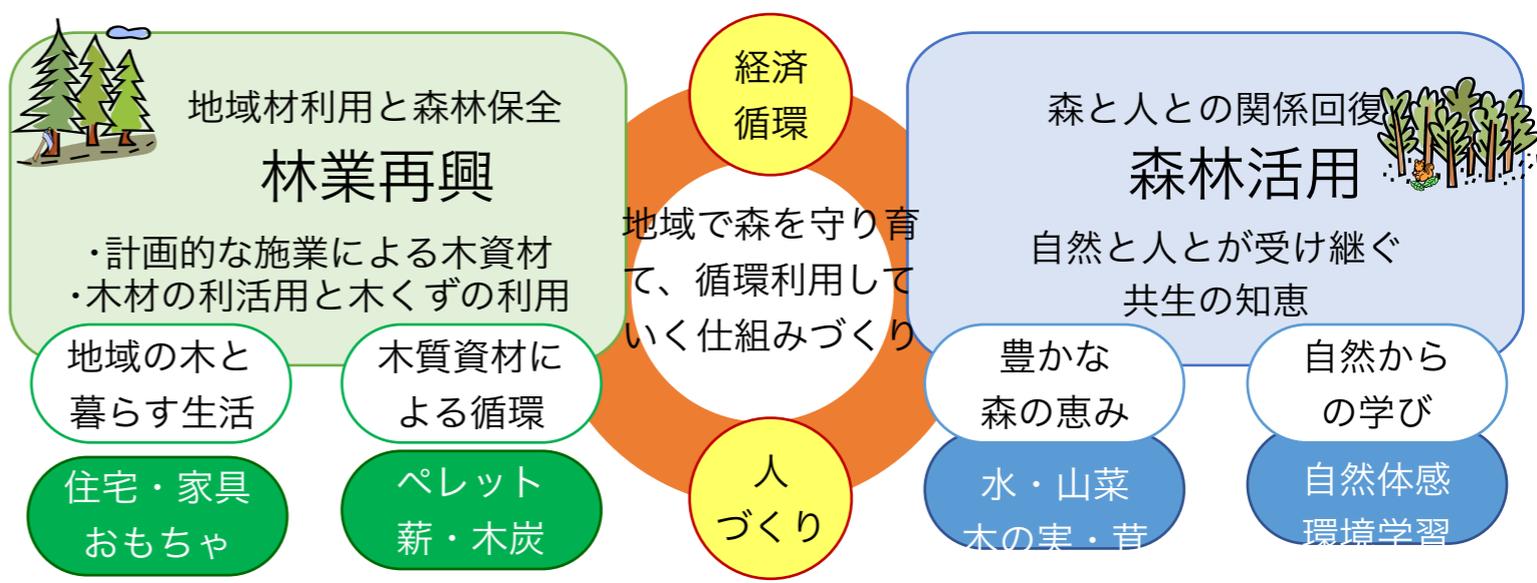
- 【森林の荒廃】 国産材の需要と価格の低迷による林業の衰退
- 【担い手不足】 山村の過疎化や担い手の高齢化
- 【所在の不明瞭化】 高齢化や不在地主増加による所在の不明瞭化

- 【生物多様性の変化】 シカやイノシシの増加やクマの異常出没
- 【温暖化被害】 台風や豪雨による倒木被害や害虫の異常発生
- 【公益的機能の低下】 施業不足による保水力・CO2吸収能力の低下

南砺市 森づくりプラン (森林整備計画)

- ◇森林資源の持続的活用と多面的機能の維持のための施業と保全の推進
- ◇地域産材の利用促進と木質バイオマスエネルギーの創出

- ① 林道や作業道の整備と境界の明確化による施業の集約化等による効率化の推進
- ② 森林ボランティア活動への支援等による人材育成や山村への定住促進等による担い手の育成
- ③ 住宅や公共施設の新増築や家具、日用品等への木材利用拡大を推進
- ④ 木くず等を利用した木質ペレット燃料の製造と木質ペレットボイラー等の導入を推進



森林の保全

- CO₂吸収
- 水源涵養
- 災害防止
- レクリエーション
- 木材等生産
- 生物多様性保全

主伐材間伐材

林地残材間伐材

- ・道路網整備
- ・計画的な森林施業
- ・境界明確化
- ・人材育成、森の大学校
- ・山村集落の活性化
- ・多面的機能の維持

木材利用促進

- ・木利用拡大を支援
- ・公共施設での木材利用推進
- ・建築用材
- ・家具、日用品、おもちゃ

木くずの活用

南砺森林資源利用協同組合 平成28年8月設立

- ・端材
- ・おが粉
- ・バット工場
- ・かんなくず

木質燃料 (ペレット・薪)

製材所

ペレット工場・木の駅

林野庁 森林・林業再生基盤 づくり交付金 平成29年設備導入

公共施設での木質燃料利用 (木質ペレット・薪)

- ・ボイラー
- ・ストーブ

熱供給

温泉・プール 病院

加温、給湯、空調、床暖等に利用

- H27-2 施設整備済 (ペレット)
- H28-4 施設整備済 (ペレット)
- H29-1 施設整備予定 (薪)
- H30以降3 施設整備予定 (薪)

家庭・事業所・産業への普及 (木質ペレット・薪)

- ・ボイラー
- ・ストーブ
- 1台10万円

熱供給

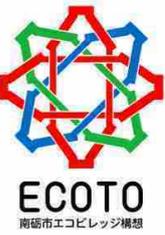
一般家庭 事業所

温室栽培

加温、給湯、空調、床暖等に利用

支援制度の創設

南砺市木質バイオマスボイラーによる地域内資金循環



バイオマスボイラー導入による流出の抑制
(化石燃料からなるエネルギー代金の流出抑制)

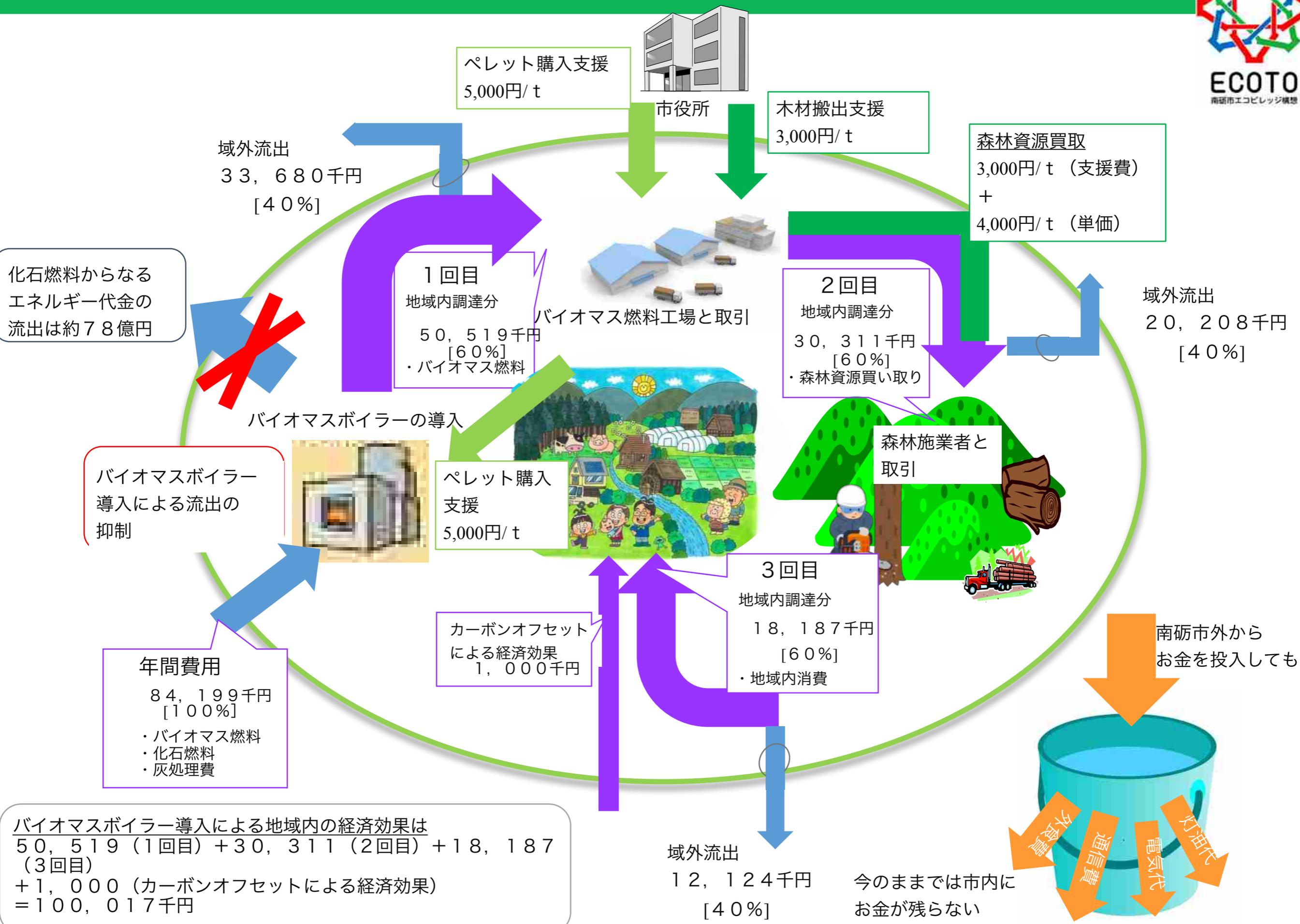
バイオマスボイラーの導入

バイオマスボイラー導入による地域内の経済効果は
 50,519 (1回目) + 30,311 (2回目) + 18,187 (3回目) + 1,000 (カーボンオフセットによる経済効果)
 = 100,017千円

カーボンオフセットによる経済効果

南砺市外からお金を投入しても
 食費 通信費 電気 灯油
 今の上までは市内にお金が残らない

南砺市木質バイオマスボイラーによる地域内資金循環



再生可能エネルギー推進事業

太陽光発電設備整備 (ヨッテカーレ、桜ヶ池クアガーデン、南砺中央病院)

木質ペレットボイラー整備 (桜ヶ池クアガーデン、福光プールほか3施設)



ヨッテカーレ

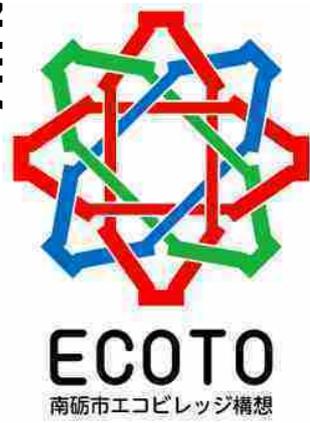
二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として整備。
年間約2,000 t のCO2削減を見込む。
計画中の木質ペレット燃料工場が稼働すると、市内でのエネルギー自給が実現する。

二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として整備。
年間約47 t のCO2削減を見込む。
蓄電池も装備し、災害時における電力が確保され、避難所として自立した施設運営が可能。



桜ヶ池クアガーデン

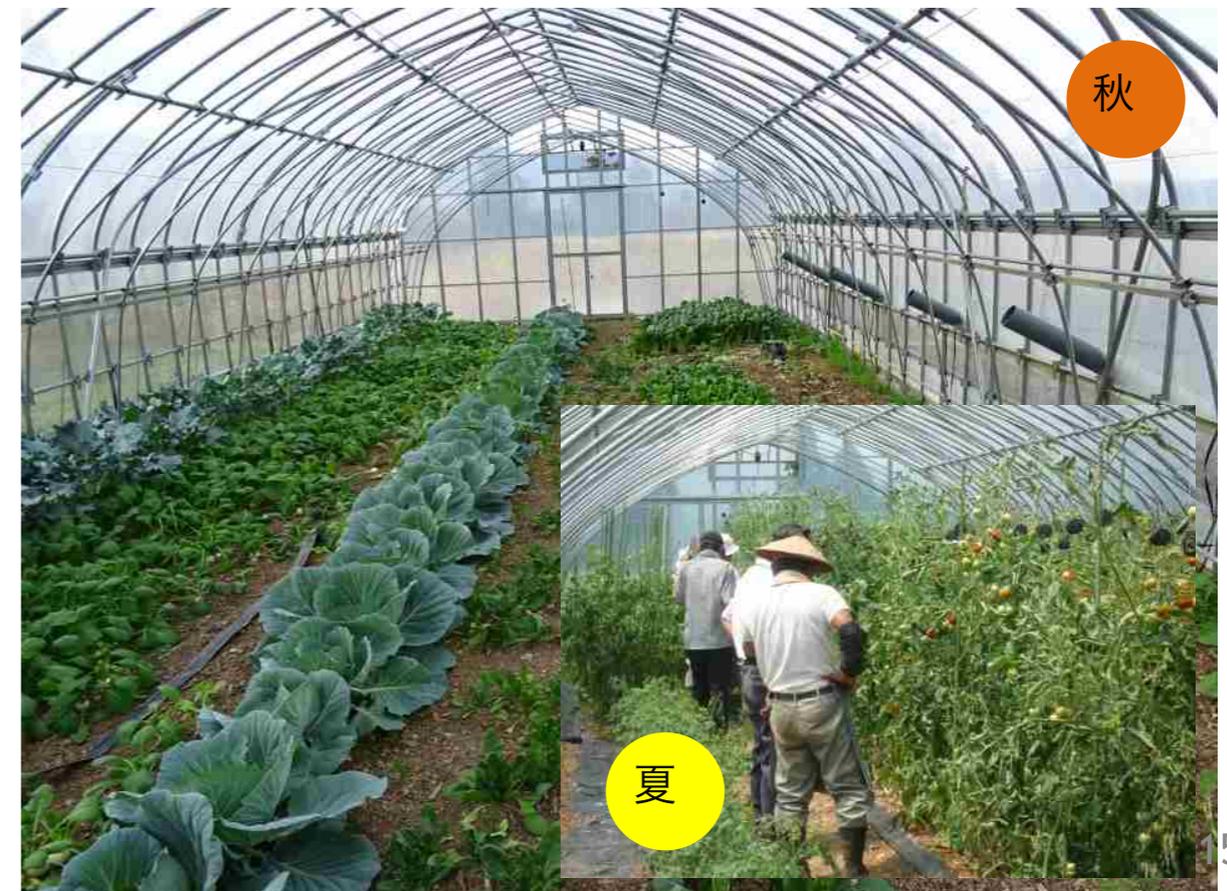
南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業 「発酵バイオマス農業」



桜ヶ池バイオマス農業推進協議会



発酵ガスに含まれるCO2には成長を促進させる作用があり、短期間での収穫や収穫回数が増加するなどの効果があった。また、作物が活性化されたことにより、腐りにくく、食味の良い作物が収穫できた。



廃棄される木の皮を発酵させると、発酵による熱とCO2等のガスが発生する。その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期でも気温15度以上維持することができ、一年を通した温室栽培が可能となる。

南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業

「拠点施設スリジエ整備」

桜ヶ池農産加工組合エキップ



立野ヶ原のおいしい野菜を自家製酵母で焼いたパンにはさんだサンドイッチやピクルス、ジャム、マカロンなどを販売。桜クリエ内のカフェ「トリアン」にも食材を提供しています。



「形が悪いだけで出荷できなかったり、人手が確保できずに収穫されないおいしい野菜がもったいない。」
そんな思いから生まれたアイデアを商品にしていく取り組み。農家もパン屋も地域も元気になります。



エコビレッジ人材育成事業 「エコビレッジ部活動」



南砺福野高校、南砺福光高校、南砺平高校



南砺福野高校

南砺市特産のあんぽ柿や立野原いちごとマシュマロを合せた新作スイーツの試作を行った。指導には地元菓子店が協力。高校生自ら試作、パッケージデザインなどを行い、福光高校ブランドとして販売。

循環型農業研修やグリーンカーテン設置、小水力発電学習を行い、環境保全について学ぶ。
中学生や地域住民との農作業交流も行い、暮らしの中にある農業を見直しも行っている。



南砺福光高校

あんぽ柿マシュマロいちごマシュマロ



木質バイオマスの発酵による炭素循環農法の検証（富山県南砺市）



期待される3つの効果

① 発酵熱の利用による低炭素

② 地域で不要な資源を利用する資源循環

③ 里山等に手が入る自然共生

検証スケジュール

平成29年度

継続

平成30年度

検討会設置

先進事例の情報収集

実証試験の実施

効果・経費等の検証

実証試験の継続

ガイドライン(案)の策定

実証試験の実施

- 実証試験は、自治体と農家が連携して炭素循環農法に取り組んでいる富山県南砺市で実施。
- 農法の効果等の比較検証を行うため、条件の違うハウスを3棟建設（①屋外大規模発酵槽タイプ、②屋内トレンチ発酵タイプ、③対象区）し、実証試験を実施。

屋外大規模発酵槽タイプ（既設）



Co2の測定状況



検証項目

効果等の検証

- ① チップ材の種類
- ② チップ材の量
- ③ 発酵温度
- ④ Co2濃度
- ⑤ 収穫量(収穫回数)
- ⑥ 食味等

経費等の検証

- ① イニシャルコスト
- ② ランニングコスト
- ③ Co2削減効果
- ④ 肥料削減効果
- ⑤ 施設導入の課題等

+

ガイドライン(案)の策定

全国へシステムを拡大

南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業



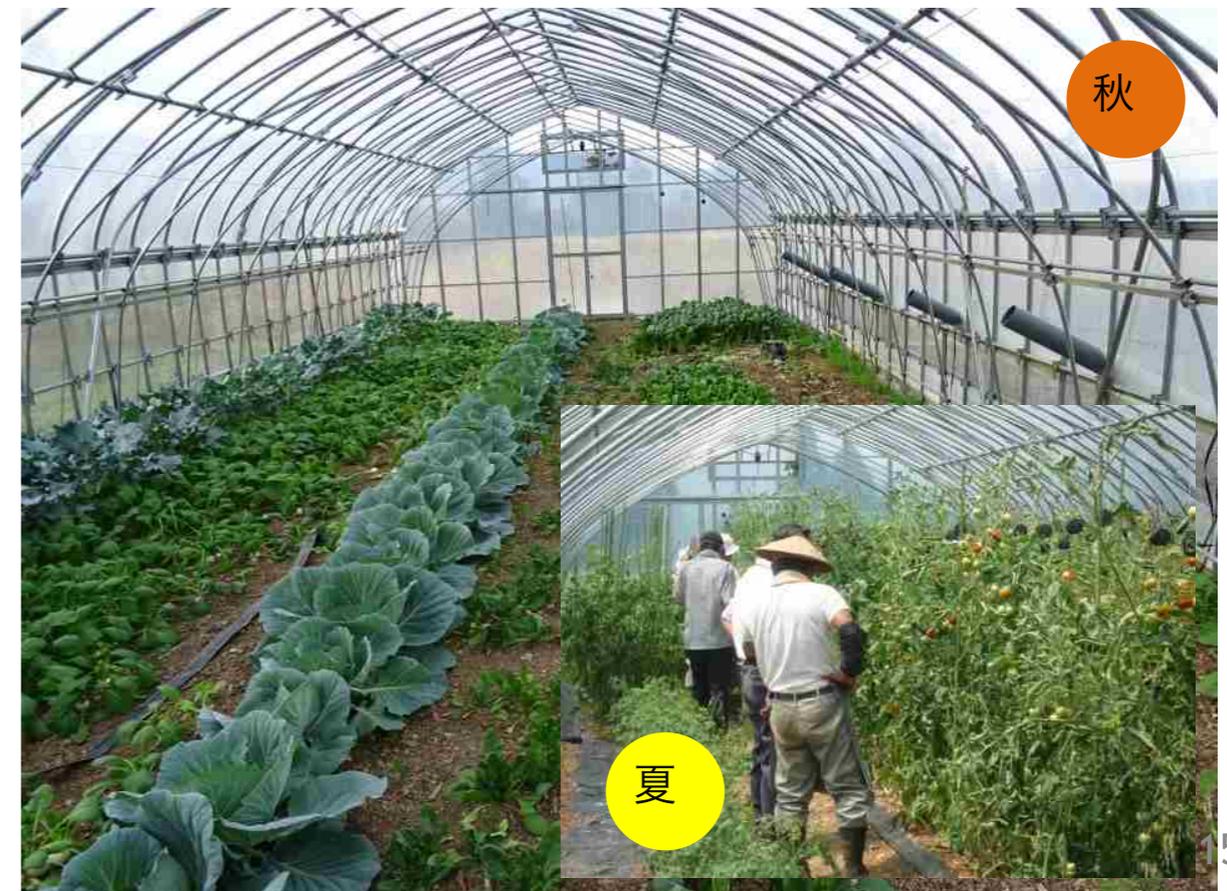
「発酵バイオマス農業」

桜ヶ池バイオマス農業推進協議会



発酵ガスに含まれるCO2には成長を促進させる作用があり、短期間での収穫や収穫回数が増加するなどの効果があった。また、作物が活性化されたことにより、腐りにくく、食味の良い作物が収穫できた。

廃棄される木の皮を発酵させると、発酵による熱とCO2等のガスが発生する。その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期でも気温15度以上維持することができ、一年を通じた温室栽培が可能となる。



再生可能エネルギー推進事業

小水力発電事業

(河川水、農業用水、水道用水)



【福野】福野調整槽小水力発電所

事業者：砺波広域圏事務組合

最大出力：16 kW

発電開始：平成29年3月

【福光】山田新田用水発電所

事業者：小矢部川上流用水土地改良区

最大出力：520 kW

発電開始：平成25年3月

【福光】白中発電所

事業者：小矢部川上流用水土地改良区

最大出力：910 kW

発電開始：平成10年12月

【上平】小瀬小水力発電所

事業者：(株)グリーンパワー小瀬

最大出力：160 kW

発電開始：平成28年10月

【井波】高瀬発電所

事業者：庄川沿岸用水土地改良区連合

最大出力：199 kW

発電開始：平成27年1月

【平】湯谷川小水力発電所（仮）

事業者：(株)新日本コンサルタント

最大出力：800 kW

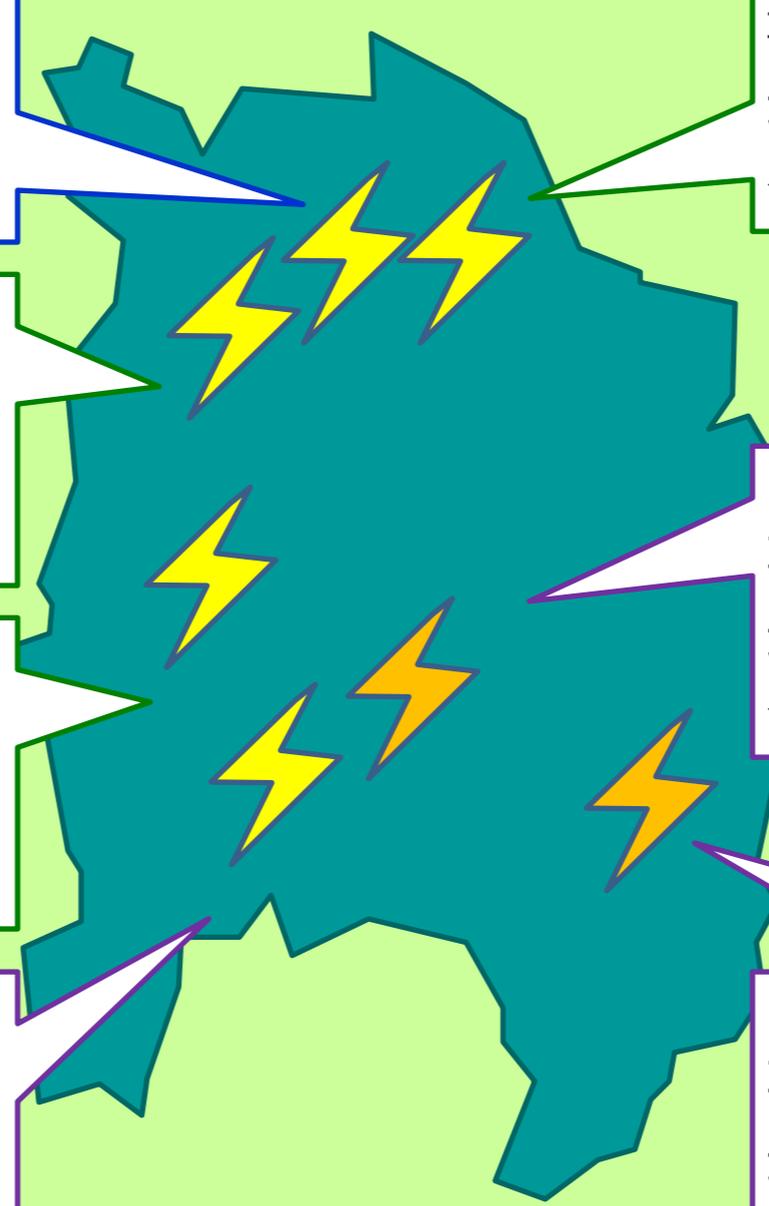
発電開始：H30年予定

【利賀】上百瀬発電所

事業者：富山県企業局

最大出力：640 kW

発電開始：H30年10月



再生可能エネルギー推進事業

住宅用太陽光発電設備設置補助

木質ペレットストーブ等設置補助



住宅用太陽光発電設備

再生可能エネルギー設備の導入を推進し、二酸化炭素排出量の削減を目的として実施。木質ペレットストーブや薪ストーブ、バイオマスボイラー等が対象。

- ・費用の2分の1以内を補助
- ・上限10万円

再生可能エネルギー設備の導入を推進し、二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として実施。

- ・住宅用の発電設備
- ・出力2kW以上
- ・1件5万円を補助



次 第

- 1、南砺市のまちづくり
- 2、南砺市の課題
人口問題と急激な少子化 長寿化
- 3、財政状況 行財政改革
- 4、公共施設再編 合併による2倍の公共施設がある
- 5、消滅するまち 増田レポートショックから 地方創生
- 6、南砺型地域包括ケアシステム 医師不足から
- 7、小規模多機能自治へ 新たな住民自治のあり方
- 8、エコビレッジ構想 SDGsへ
- 9、南砺幸せ未来基金の設立に向けて
- 10、農村文明創生日本塾の立ち上げ
- 11、その他

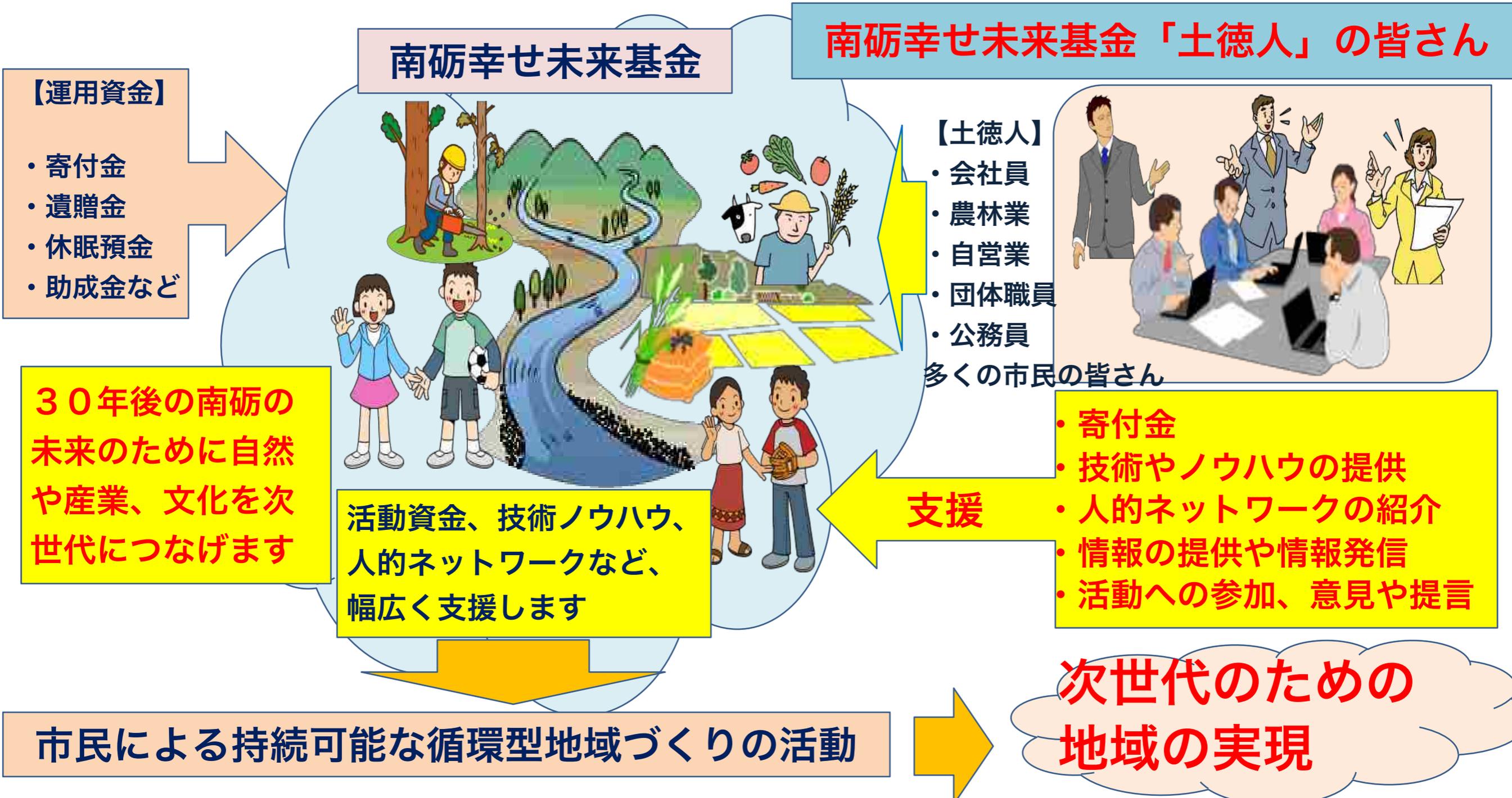
志民の志金による

なんと！幸せ未来基金設立に向けて

南砺幸せ未来基金設立における「土徳人」の概要

【目的】 南砺幸せ未来基金を設立するため「土徳人（創設オーナー）」を募り市民活動を支援します

- ①財団法人設立のための基本財産（寄付金）を募ります
- ②市民活動を推進するため土徳人の技術やノウハウを提供します
- ③市民活動に必要な人的ネットワークの提供や情報発信により支援します



「南砺幸せ未来基金」を活用したひと・まちづくりの概要

地域の思いを地域の知恵と連携と資金で

自ら実現する仕組みづくり

人や自然、文化などの地域資源を活用しながら、若者のやる気に溢れる活動や地域が抱える諸課題を解決する活動などを応援することで、地域を元気にし、未来の南砺を創るための仕組みとして基金を活用する。

基金の運営を通し、資金だけでなく、人と人を繋ぐことで、支え合う地域の力を育てる。



- ・団体の育成指導
- ・コミュニティビジネス支援
- ・ネットワーク、交流、情報交換
- ・地域づくりの知恵袋、支援

非資金的支援

(中間支援組織等と連携)

設立オーナー
(土徳人)

応援

助言・手伝い・購入・利用など

南砺
未来創造人材

資金調達

- 【市民から】
- ・寄付
 - ・遺贈
 - ・投資信託

- 【事業者・法人から】
- ・寄付
 - ・融資
 - ・出資

- 【行政から】
- ・目的別補助金運営委託

- 【その他団体から】
- ・休眠預金

公益財団法人
南砺幸せ未来基金
(円卓会議+基金運営会議)

- ポイント：社会的収益の見える化
(経済価値、社会的価値)
- ポイント：社会的認証(信用)
- ポイント：南砺全体での連携(南砺の誇り)

お礼

品物、お金、地域貢献など

活用例

- 助成
- 助成+融資
- 融資
- 行政補助金の成果審査型交付への移行
- 地域通貨

1. 基金設立に向けて

H29年11月

基金設立発起人会設置

- ・基金を活用した次世代育成等のまちづくりについて検討。

H30年2月

基金設立準備会設置

- ・発起人の拡大。趣旨、事業について確認。

H30年4月

設立呼びかけ

- ・寄付募集開始。

H30年6月

円卓会議開催

- ・基本財産300万円以上の寄付金が集まった時点で開催。
- ・賛同者による寄り合い。

一般財団法人「南砺幸せ未来基金（仮）」設立

- ・法人登記
- ・公益認定を県に申請
- ・運営体制の整備

公益財団法人「南砺幸せ未来基金（仮）」設



運用資金の調達

- ①遺贈等寄付受入（遺言等による財産寄付）
- ②休眠預金（活用団体からの助成・貸付）
- ③コミュニティ助成（地域課題解決への寄付）
- ④コミュニティ融資（金融機関との融資連携）
- ⑤コミュニティ投資（地域貢献商品化への投資）
- ⑥ソーシャルインパクトボンド（補助金から成果報酬）

エコビレッジ事業の実施

- ・再生エネルギー
- ・農林業、商工業
- ・教育、人材育成
- ・地域包括ケア
- ・伝統、コミュニティ
- ・ソーシャルビジネスなど

次 第

- 1、南砺市のまちづくり
- 2、南砺市の課題
人口問題と急激な少子化 長寿化
- 3、財政状況 行財政改革
- 4、公共施設再編 合併による2倍の公共施設がある
- 5、消滅するまち 増田レポートショックから 地方創生
- 6、南砺型地域包括ケアシステム 医師不足から
- 7、小規模多機能自治へ 新たな住民自治のあり方
- 8、エコビレッジ構想 SDGsへ
- 9、南砺幸せ未来基金の設立に向けて
- 10、農村文明創生日本塾の立ち上げ
- 11、その他



田舎暮らしは格好いい

南砺市長 田中幹夫さん

地元、北陸を誇りに思っていない人も少なくないのではなないでしょうか。実は、山深い富山県南砺市の利賀地域出身の私もそうでした。

子どものころ、「山の田舎もん」とレッテルを貼られて、嫌な思いをしました。東京の工学院大に進学したときも、同級生には「実家は金沢の近くだ」と言われて自慢していました。こんな

いましてから。そんな考えを、大学在学中に読んだ雑誌の記事が変えてくれました。東京から利賀に拠点を移して活動していた演出家の鈴木忠志さんが、利賀で演劇祭を開催するところの記事です。誇らしげに、雑誌を友人に見せつけて自慢していました。こんなに

有名なのが北陸の地を選ば、成功しているんだ。今では、田舎暮らしを格好いいと思っています。最近では、全国的に有名な「ニメ制作会社」「ワークス」が南砺市に本社を置いて活躍しています。クリエーターたちの発想力

ました。そこで、浄土真宗の盛んな北陸に根づく「土徳」という精神文化に感銘を受けたそうです。厳しい自然の中で、人々が食べ物に分け合い、あらゆるものに祈り、感謝する。こうした文化は、今も南砺には色濃く残っています。精神的な豊かさは、自然や命が身近に感じられるところにあります。今、人々が求めているのは田舎ならではの素材ではないでしょうか。地球への負担が増



たなか・みきお 1961年、富山県南砺市生まれ。八尾高、工学院大卒業後、吉田工業(現YKK)に入社。89年に旧利賀村職員となり、旧8町村が合併して南砺市が誕生した2004年、同市議選で当選。08年に同市長になり、現在3期目。移住促進や婚活支援、アニメを活用した地域活性化事業などに取り組む。16年から農村文化の持続と発展を目指す一般社団法人「農村文明創生日本塾」代表理事。56歳。

きょうの紙面

オープン戦 清宮初打席



日本ハムの新人、清宮幸太郎内野手。注目のオープン戦初打席は？(1)面

東京五輪へ平昌の教訓とやま遺産・藤箕作り京田2年目のキャンプ石巻・大川小が閉校式原子カムラ天下り今も

地方を元気にする人たち

元気な場所には、元気な人あり。各地をいま、盛り上げている人たちに、どんな取り組みをしているのか？ そして、そのネライは？ 地方が元気になる秘訣を、知っている人たちです。



Profile

南砺市長 田中幹夫さん

【たなかみきお】

生家は「毛紡主」と呼ばれる浄土真宗の念仏道場。2008年、南砺市長に就任。アータンの国民幸福に思い、魅力溢れる利他・志民によるまちづくりを情熱を注ぐ

南 南砺市は観光地にスポットを当ててきた。観光客の増加により、交流の場が生まれ、新しい文化や食文化が育ち、酒、かぶら、味噌、漬物、お茶など、暮らしの文化が育まれている。

だが、なにより一番の魅力は、南砺の散居村の心と風土であり、南砺の人の素朴なやさしさや思いやりではないだろうか。

「日々暮らしているところ、気づかないんですが、これが土

1000年続いてきた風土を伝えるために

地方に本当の豊かさ

地方自治体2500の首長や20人の大学研究者が賛同して1月、「一般社団法人農村文明創生日本塾」が発足した。文化や暮らし、協同の精神など農村に根差した社会の持続を目指し、政策提言や情報発信を担う。代表に就任した富山県南砺市の市長である田中幹夫氏に、立ち上げた理由や活動方針を聞いた。

田中幹夫代表に聞く

農村の文明と何ですか。文明は都市を構築し発展させるイメージがありますが、農村を守る社路にある。どんな活動を

進めますか。これまで地方自治体は経済成長を目指し続け、大企業の誘致や道路、橋

「農村文明創生日本塾」とは



たなか・みきお 1961年、富山県南砺市(旧利賀村)出身。2008年より市長となり現在3期目。人口約5万5000人の同市では、持続可能な地域をみんで目指す「エコビレッジ構想」を手掛け、再生可能エネルギーや森や里山の活用を進めている。

個性生かし一流めざせ

た。地方創生というが、それはいわば「三流の都市」の形成になってきたのではないかと。この地方都市でも同じような風景が広がっている。行政の総合計画でも、新しいものを作ることはかなり重視されてきた。しかし、今あるものをどう残すか、方針転換をしなければならぬと思う。塾ではそのための政策提案や情報発信を強化したい。

農村部に必要なのは、一流の田舎だ。一流の田舎とは、その地方にしかない個性を生かすこと。農村で生産したものをその地で消費する小さな経済や循環を大切にしたい。

例えば南砺市には全国チェーンのファストフード店やファミリーレストランが一つもない。でも、地域の食材を調理したおいしい地場の飲食店はたくさん残っている。

田園回帰が広がり、程度の良い若者は、地方に可能性を感じている。古いもの、廃れそうなもの、農村文明に価値を見いだしている。こうした流れを国民運動として大きなうねりとするべく、塾ではシンポジウムや講演などを展開し仲間をどんどん増やしたい。

効率性、経済性を追求し、産業という観点だけで農業振興をしては、条件不利地の農業は置いていかれる。国の農政は大量生産の農業だけを支援しようとしているように思える。農村を守っていく施策が必要だ。

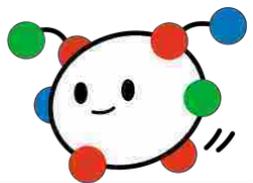
(聞き手・尾原浩子)



一般社団法人
農村文明創生日本塾

農村文明創生日本塾は

農山漁村に根ざした個性豊かで多様な
文化や暮らしの持続と発展を目指します

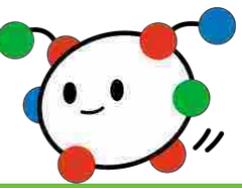


明治維新以来、近代西欧文明の血流はグローバル賛歌となって日本国という身体の幹を流れ続けています。その帰結として、美しい日本国の姿を支え続けてきた農山漁村地域と暮らしは大きく変容し、危機に瀕しています。近代国家の形成に力を発揮した向都離村の思想は東京への一極集中を加速し、日本人のふるさとである農山漁村が衰退の道を辿り、存亡の危機に直面しています。戦後復興・高度成長期から続く都市化とグローバル経済化は、もはや自治体や政府の力をもってしても制御するのは困難になっています。

民俗学者の柳田国男は「人に人格があるように村には村格がある」と云って農山漁村で生きる人々を鼓舞し、郷土への愛着と誇りを育みつつ、そこで暮らすことの素晴らしさを讃えました。平成の四半世紀を終えた今、美しい日本の姿を取り戻すためには、農山漁村とその村格を国家の共通資本と捉え、その価値とコストを国民が皆で分かち合う日本社会を創生すべきではないでしょうか。そのためには、日本の国の格とは何か、村格とは何か、その場所の農山漁村とは何かを全国民が自分の問題として考えることが大切です。それができなければ、縄文・弥生時代から流れる日本文明の基礎を根底から失うことになりかねません。近代文明が有する強大な力の源流の負の本質を真剣に考える時です。しかしながら、私たちは明治以前の社会に戻り暮らすわけにはいきません。全国民が共感する新たな思潮が芽吹くその時、初めて、グローバルなそれに対峙し得るグローバルな力を国民力として獲得し、美しい農山漁村が光り輝くのではないのでしょうか。



「農村文明創生日本塾」 設立趣意書

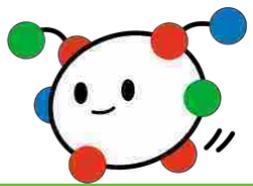


私たちは、「農村文明の創生」という言葉に思いを集め、全国の首長とリーダーに呼びかけます。そして、志の高い首長・有識者・研究者・実践家等の有機的連携を促進し、それぞれの首長がそれぞれの地域の実践をともに学び合い、農山漁村の場所環境が育むそれぞれの村格を尊重し、それぞれの農山漁村が持続的発展を可能にする共創の地域づくり運動を促進することができる逞しいエンジンとしての国民運動体を構築したいと考えています。

全国の農山漁村に宿る知性と歴史と伝統文化を束ね、都市地域に暮らす人々に生きる力を呼び起こし、命と暮らしを大切にする日本人本来の価値観が流れ、そこを誰もが憧れる場所へと変革する国民運動を通し、それぞれの地域で農村文明社会の創生を目指す行動こそが、希望が見える姿としての日本の未来を拓くと信じます。



農村文明創生日本塾とは？

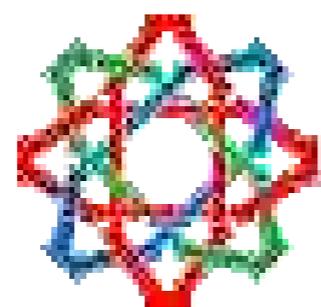


農村文明創生日本塾とは、農山漁村に根差した個性豊かで多様な文化や暮らしの持続と発展を国民運動として目指し、農山漁村と都市をつなぐ共通の価値観としての「農村文明」の理念を柱に、魅力ある農山漁村の創生を図り、以て都市と農山漁村共生社会の実現と信頼感に満ちた持続可能な社会の発展に寄与することを目的とします。

次 第

- 1、南砺市のまちづくり
- 2、南砺市の課題
人口問題と急激な少子化 長寿化
- 3、財政状況 行財政改革
- 4、公共施設再編 合併による2倍の公共施設がある
- 5、消滅するまち 増田レポートショックから 地方創生
- 6、南砺型地域包括ケアシステム 医師不足から
- 7、小規模多機能自治へ 新たな住民自治のあり方
- 8、エコビレッジ構想 SDGsへ
- 9、南砺幸せ未来基金の設立に向けて
- 10、農村文明創生日本塾の立ち上げ
- 11、その他 文化政策 アニメ 他

平成22年度 文化芸術創造都市に認定
全国で17市町村



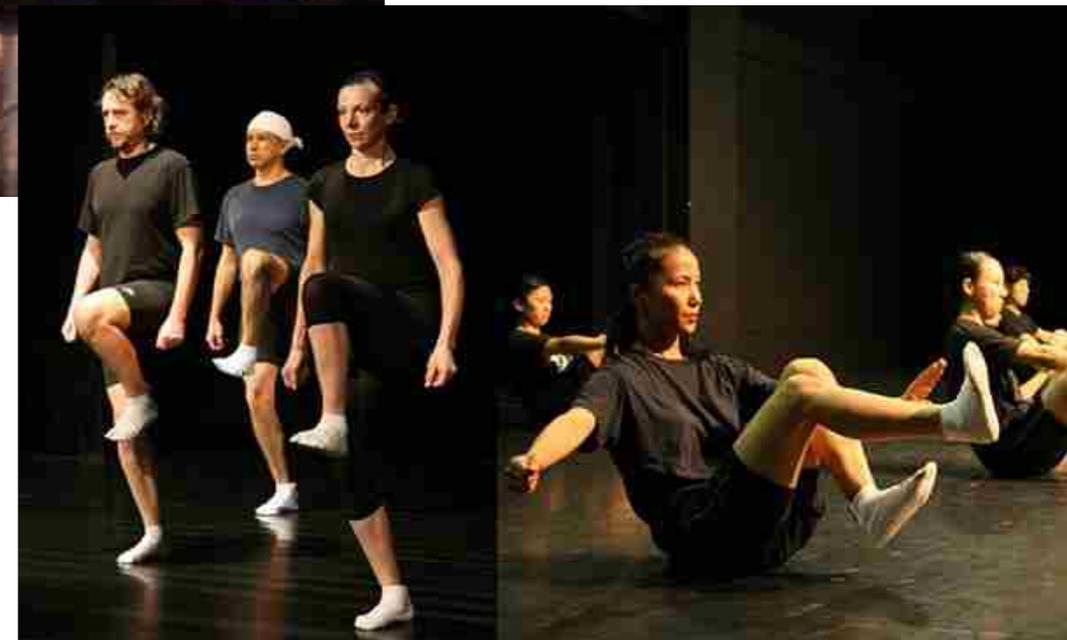
ECOTO
南砺市エコビレッジ構想

演劇の聖地 利賀



ワールドミュージック



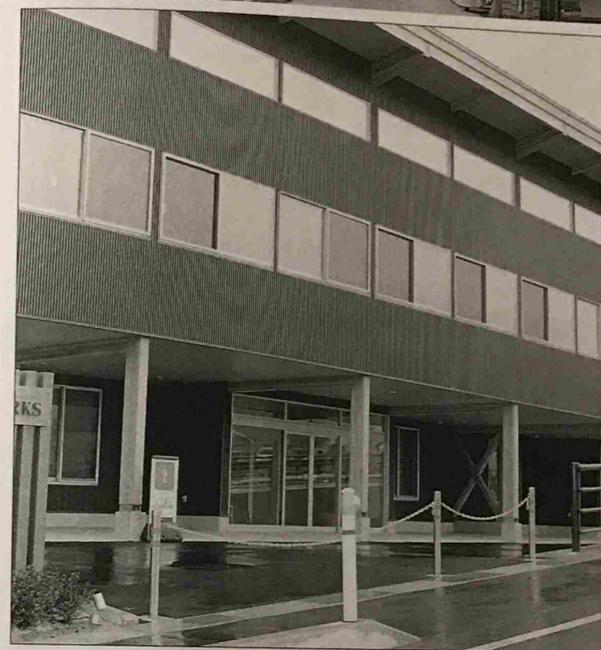


アニメによるまちづくり

IT企業との連携

デザイナーとのまちづくり

南砺のアニメまちおこしは 本気度がケタ違い



聖地巡礼が大ブームに！
アニメ映画「君の名は。」が社会現象にもなる大ヒットを飛ばし、その舞台である岐阜県飛騨には、映画を観た大勢のファンが訪れ、「聖地巡礼」という言葉が話題をさらった。岐阜県は続いて公開された京都アニメーション制作の映画「聲の形」の舞台（大垣市）にもなり、「どうしてアニメの舞台に岐阜が人気なのか？」なんて命題の議論も起きている。

アニメ作品のモデルとなった場所を訪れる聖地巡礼の経済効果は、その作品の人気にも左右されるが、自治体によっては20億円以上ともいわれ、自治体の知名度や魅力度のアップに貢献したりするなど、特に地方都市では観光資源として

タイアップでも面白い作品を作ってもえればそれでいいわけだし、それで地方・制作会社・視聴者すべてがプラスになるのなら、こんなに素晴らしいことはない。

と、前置きは長くなったが、富山県には地方に拠点を移し、地域とのつながりを密にしながら作品を提供している「ピーエーワークス」というアニメ制作会社がある。

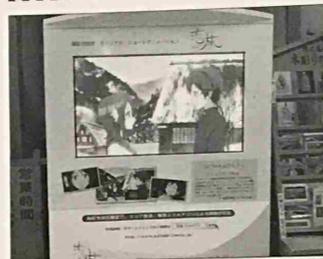
アニメの街・南砺

ピーエーワークスの本社があるのは南砺市（城端）。同社の作品

富山県が舞台の主なアニメ

作品名	舞台	アニメ制作会社
マイの魔法と家庭の日	富山市	P.A.WORKS
恋旅	南砺市	P.A.WORKS
おおかみこどもの雨と雪	上市町、立山町など	スタジオ地図
true tears	南砺市	P.A.WORKS
ベルソナ〜トリニティ・ソウル〜	架空都市の織島市（射水市）	A-1 Pictures
Another	砺波地域	P.A.WORKS
ゆるゆり	高岡市	TYOアニメーションズ
クロムクロ	黒部市、富山市など	P.A.WORKS

※2016年10月現在 ※各種資料より作成



「恋旅」は2013年の作品だが、南砺市では今でも道の駅などでその映像が見られる

は地方を舞台にしたものが多く、会社のある北陸3県を舞台にした作品も少なくない。地元・南砺を舞台にした作品もあり、青春群像劇の「true tears」（2008年）は聖地巡礼でも人気となった。また「true tears」の声優・スタッフが集まった「恋旅〜True Tours Nanto」（2013年）は、南砺の観光PR（聖地巡礼）を目的として制作された作品。南砺の各地区が舞台となっており、しかも市内に来ないと観られないという仕掛けで観光誘致を図った。作品が気に入って聖地に出かけるというのが本来の順序で、これはコンテンツを見せずに聖地巡礼をさせようという実験的な取り組みでも

あったが、現地で話を聞いたら「当時は車で来る人が多くて、みんな集団で市内をぐるぐる回ってたねえ」と、それなりの効果はあったようである。

また、2015年には南砺とピーエーワークスが連携し、アニメ文化が浸透しているフランスのバリで開かれたアートイベントで「恋旅」のフランス語版上映を実施。南砺の魅力発信すると共にインバウンド戦略にも打って出た。さらにアニメの街・南砺が文化創造発信の拠点となるべく、城端SAのそばにクリエイティブプラザを整備。ピーエーワークスも同地に本社スタジオを移転している。

さて、話を聖地巡礼に戻すが、舞台となった街や地域には、「ファン」として必要である。「ファン」という意識が必要である。そのためにはまず作品をちゃんと知るべきで、アニメの舞台だからと言って、作品無視で観光PRされると巡礼に訪れたファンはガックリきてしまうのである。逆に、ファンのツボをつかんだ仕掛けや新しい発見などがあると、ファンらしいものだ。南砺も再び「ファン」の心をつかむべきだ。「なんとこんなものまで」とファンが驚かせたら勝ちである。

越中の小京都とも呼ばれる城端の個性あふれるお祭り

南砺を舞台にしたアニメ「true tears」の監督がその美しい町並みにいたく感動したという城端（旧城端町）は、越中の小京都とも呼ばれている。毎年5月には、300年の歴史を持ち、6台の山車が町中を練り歩く城端曳山祭が開催される。9月にも富山の民謡「むぎや筋」を中心とする郷土民謡の唄と踊りの祭典・城端むぎや祭が開催されるなど、これらの祭りは先のアニメの中にも随所に登場している。



キミに見せたかったものがあるんだ。

恋旅

True Tours Nanto

富山県南砺市を巡る「3つの恋の物語」

2013.4.28

南砺市地区限定 エリア放送・専用アプリ視聴

監督：西村純二 脚本：岡田麻里 西村ジュンジ

南砺市アニメツーリズム推進事業

オリジナルショートアニメーション

富山県南砺市を巡る「3つの恋の物語」

南砺市クリエイタープラザ構想



MENU

- > 一般社団法人リバースプロジェクトについて
- > 寄付をお考えの方へ
- > 元気玉プロジェクトアーカイブ一覧
- > 事業実績
- > 協力団体一覧
- > お問い合わせ

富山県南砺市

エコビレッジを目指して



美しい日本の原風景が息づく南砺市
日本の懐かしい未来をつくるために活動中



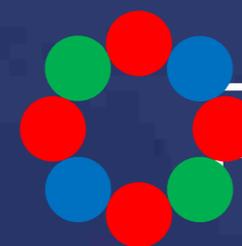
白川郷・五箇山の合掌造り集落や、多くの伝統文化が根付く富山県南砺市。この地で、REBIRTH PROJECTは2012年に田中幹夫市長よりお声かけいただき「エコビレッジ構想」に参加させていただくことになりました。

海外において既に幾つもの事例がある循環型社会を実現する地域、自主的に取り組んでいます。国内においては、企業によって開発名称として使われる事例はあっても、半ばの事例は存在しておらず、本格的な試みとしては国内初となります。

位置する桜ヶ池中心に、水力や太陽光等の自然エネルギーを活用した循環型社会構想に含まれています。

ご清聴ありがとうございました。

富山県



南砺市